



# 北から南から 救援物資が花蓮に

訳 / 森元馨勝

## 「花蓮地震」募金

ゆうちょ銀行

振り込み口座：

00190 - 4 - 753352

口座名義：

仏教慈濟基金会

ブッキョウツーチーキキンカイ

### 0206花蓮地震緊急支援



ボランティア派遣人数：  
延べ **8,046**人



緊急見舞金配布：  
**198**世帯  
**415**萬元  
(1494万円※1台湾元=3.6円)



炊き出し：  
**16,803**人分



物資援助：  
エコ毛布 **1,801**枚  
簡易折り畳みベッド **744**床  
生活用品セット **239**セット



在宅訪問：  
訪問 **1,282**世帯  
生活用品計 **1,068**セット  
救急隊員への感謝ギフト **1,559**セット

上記は2018.02.13までの支援です

静思静舎の修行僧、慈濟のボランティア、職員、慈濟大学の先生、生徒、花蓮駅の職員さんなど、多くの人の力を合わせ、リレー式で救援物資をトラックに積み込みました！

花蓮大地震発生後、慈濟は継続的に物資の供給、被害者への慰問、深夜の温かい食事や飲み物の配布を行い、2月7日午前までにトータル1000枚のエコ毛布、445人分の簡易折り畳みベッド、テーブル、椅子、テントなどの物資を配布しました。さらに台北から1700枚のエコ毛布、2000枚のエコマフラーを緊急調達し、台湾鉄道の協力のもと花蓮駅まで輸送しました。加えて、高雄の慈濟ボランティア達も11800人分のビスケット、1300人以上のパンを多くの一般市民の協力を得て、運び込む事が出来ました、これこそ大愛共伴の援助とも言えるでしょう。

台北からの防寒具、花蓮駅で多くの人の協力を得て移送

花蓮大地震発生から1時間後、慈濟は防災総調達センターを設立、慈濟基金会のメンバーと慈濟ボランティア達により、各災害現場と被災者収容センターにおいて、1000枚のエコ毛布と簡易折り畳みベッドを配布した。同時に台北から1700枚のエコ毛布と2000枚のマフラー、トータル205カートンの物資を台湾鉄道の協力を得て272便、470便の各一車両に積み込み、花蓮駅まで輸送頂きました。さらに花蓮駅では駅職員の協力を頂き、トラックへの積み込むことが出来ました。

救援物資は台北東区慈濟センターに集結、十名の慈濟ボランティアがそれを一番近い松山駅まで運びました。そこから列車の発車時刻に合わせて車両に積みこむ時、ホームにいた一般の人達、駅員の方々、皆が力を合わせて協力しました。列車の車長さんは：「感動しました！これこそ台湾の人です！花蓮の人々はきっと貴方達に感謝しています！」と言いました。

台湾南部でパン屋を経営する慈濟ボランティアは、少しでも現地被災者達と救援隊の体力回復に役立てられればと願い、自分の店から1300個パンと高雄慈濟ボランティア達が調達した11800人分のビスケットを花蓮へ直送した。

慈濟基金会はいつものように“最も早く現場へ赴き、最も後に現場をさる”の原則を守り、被災者と救援隊への最大のバックアップを行います。各地の慈濟基金会病院、世界各地の慈濟支部や連絡所も、誰もが今回の震災より早く立ち直れるように祈ります。